

令和5年度 第3回 印西市立図書館協議会会議録 要旨

- 1 開催日時 令和5年9月28日(木) 午前10時00分から午後0時20分
- 2 開催場所 印西市文化ホール 2階 大会議室
- 3 出席委員 安川委員、竹原委員、永田委員、武井委員、石ヶ谷委員、倉沢委員、黒澤委員、関口委員、栗山委員
- 4 欠席者 石渡委員
- 5 事務局 飯島生涯学習課長、秋谷大森図書館長、伊藤大森図書館副館長、伊藤主査、堅田主査、齊藤主査、都市環境計画研究所
- 6 傍聴者 12名
- 7 会議内容 議 事
 - (1) 「印西市立図書館のあり方について」その2
 - (2) 印西市立図書館年報 ―令和4年度統計― (案) について
 - (3) その他報 告
 - (1) 印西市立図書館サービス計画(案)及び印西市立図書館サービスに関する市民意識調査(速報版) アンケートについて
 - (2) 印西市民話絵本作成活用方針(案) について
 - (3) その他

会議要旨(要点筆記)

【会議公開に伴う傍聴席の設置と会議録作成のための録音機材の設置の了解】

【生涯学習課長あいさつ】

【委員長あいさつ】

(進 行) それでは、議事に入らせていただきたいと思います。
議事進行につきましては、印西市立図書館設置条例施行規則第21条第1項の規定により、委員長が議長となることとされておりますので、倉沢委員に議長をお願いいたします。

(議 長) それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきたい。
会議の円滑な進行にご協力をお願いしたい。

【会議録署名委員の指名】

(議 長) はじめに、本日の会議録署名委員の指名を行います。
名簿順にお願いしておりますので、今回は名簿6番の黒澤委員を指名させていただきます。

【議題】

議題(1) 「印西市立図書館のあり方について」その2

(議 長) それでは、議事に入りたいと思います。本日は、議題、報告がありますが、十分な議論をしつつも時間的な制限もありますので、進行にご協力の程よろしくお願ひしたい。

議題(1)「印西市立図書館のあり方について」その2について、事務局より説明をお願ひしたい。

(事務局) 議題(1)「印西市立図書館のあり方について」その2について、説明

(議 長) 今までの議論をまとめてここに記してくださった。というふうに理解しましたが、それでよろしいですか。事務局の説明では、そういうふうに受け止められましたけれども、一応私たちの議論がここに反映されているということですね。みなさん事前に読んできてくださったと思いますが、今のご説明で特に質問あるいはご意見等がございましたら、どうぞお願ひしたい。

(委 員) 会議録の3ページ目について、事務局に関しては、休みの日を利用して個々に見学に行っている。図書館の訪問見学については、個々に見学に行っている報告を聞いたことがないので、どんな感じだったのか、図書館をただ眺めただけではないと思っていますが、図書館の人と話をしたとかそういった内容の報告をお願ひしたい。

(議 長) その件について、どうか。

(事務局) 他の職員がどれだけ行っているかわからないが、私は去年まで別の部署だったこともあり、個人として自分の興味のある図書館を見学している。旅行先で興味のある図書館を見て回っている。正式な視察ですと依頼書を出してきちんと向こうの方にも時間を取っていただいてという形にな

りますので頻繁に行けません。たとえば盛岡の民間と連携事業でおこなった図書館を見に行ったりしている。指定管理を考える上で私が思っているのは、大宮区役所が新しくなって、区役所と図書館が一緒になっているところがあるので、今後見に行きたいと思っている。

(委員) 私たちが聞きたいのは、行政の中核部分、財政や企画部と折衝なさる館長や副館長がどういうところの図書館に視察に行って、この指定管理についてきちんと折衝の時に発言するための基礎的なこととして、どういうところに見学に行きそして、どういう感想を持たれたかを実は聞きたい。館長や副館長が折衝するときの一つの武器として、そのためにどういうところを視察に行ったのかを聞きたいと思う。

(事務局) 私も視察ということではなく、個人で地元の我孫子市湖北の図書館を見学した。ちょっと小さい図書館であったが、親切丁寧にお話をしてくださった。移動図書館があり、市にもあったらいいと感じた。

(委員) お願いしたのは、船橋西図書館や守谷の図書館をぜひ見ていただき、折衝にあたっていただきたい。

(議長) それは、前回の会議録にもあって黒澤委員から話があって、指定管理の質が上がっている船橋市や浦安市の事例が出ているが、これからの議論の中で、22ページの「指定管理者制度についてのメリット、デメリット、指定管理から直営に戻した事例、成功事例などの資料に基づき検討を行いました。」とあるが、成功事例のこれが弱い部分。そこを突っ込まれた時にどうやって答えるか。事例をあまり持っていない、少しあってもあまり良くない方向に行っているので、その分析がもう少しほしい。議長で申し訳ないが、今回の目次で1から18までの中で、答申はこの諮問の審議事項に見合う形の答申内容が求められるように思います。ここに出ているように答申を私たちが受けたときに、「図書館の特性なども考慮しながら、図書館を取り巻く状況の変化」これを私たちがどう理解したのか。「新たな課題に対応した印西市立図書館の運営のあり方について諮問するものです」ということで「運営主体が直営、指定管理者、部分委託を含め」と書いてあるが、この審議事項の要請にする答申の1から18がどういうふうに関わっているのかもやっぱり良く整理しておかないといけない。この18項目でいいのかどうか、ちょっと見たときに指定管理者制度のメリットの部分で成功事例の分析がも

う少しあっても良い。デメリットとの関係性をもう少し密に書いた方がいいのではないかと私は思う。そういう意味でこの指定管理で良くやっているところ、たとえば船橋市なんかで、本館が直営で他の3館が指定管理でという時に、どうしてそういうふうになったのか、3館が本館直営とどういう関係の中でうまくいっているのか、そのことについても調べてほしいと思う。アクションプランでは、どういうわけか一番利用が多い大森と小倉台を指定管理にして、あとは直営でやるとなっている。もし6館の統廃合とか新しい施設のあり方を考えていくときに、何を基準にして統廃合し、これは私たちの責任じゃ無いかもしれないが、これからの図書館のあり方を考えたときに、やっぱりもう少し地域のニーズに合った図書館の施設とかを考えていくべき時に何が直営で、何が指定管理者制度でも有効に働くのかどうか、見極めをある程度しとかなないとまずいのではないか。その辺を知るためにもせつかく船橋市の事例を出して下さっているの、その辺を突っ込んだ分析があれば感謝かなと思う。

(委員) 今、船橋市の話で成功している事例が出たが、その船橋市の成功している話ですが、それが印西市で適用できるかということも考えてみてほしい。まるまる船橋市のやり方が合うとは私は思っていないので、それはそれで参考にして印西市はどうかという事も立ち返ってほしい。引き続きもう一つですが、19ページ目のところの、職員数ですが、図書館司書が専門職でありながら印西市はほとんどが非正規雇用という現状で、ちょっと言葉は悪いが、文化にお金をかけないっていう姿勢が伺えるかなと思っている。ぜひ図書館司書は正規であってほしいと思っている。よろしくお願ひしたい。

(委員) 今、副館長の説明を聞いて、こういう議論がありましたとか、こういうふうに議論しましたとか、意見が出ましたとか言われましたが、議論した実感があまりなくて、自分の感覚としてみなさんと、この委員会で諮問にかけられた内容について、意見を交換した感覚があまり無く、今年5回に増えているが、諮問にかかったことによって、今までの図書館協議会が年3回だったのがプラス2回になり、2回分ぐらいはこの答申を作るためにしっかり話し合うような感じでいたが、今、3回目で資料が出てきて、メリット、デメリットがありましたけど、このままだろう。そもそも運営の仕方とか、図書館はどういうものなのか、根本的なこと

ろから考えていかないと運営のあり方とか答申も出ないかと思っている。私は、添付資料を出させてもらいましたが、行ける限りのところの図書館を見て、話を聞き、図書館ってどういうところだろうとか、どういう位置づけであるべきか。あと、どういう直営が良いのかとか、指定管理を入れたらどうなのか自分たちで訪ねて行って、考えての資料をまとめたので、それを見てもらってから考えてもらいたいと思っている。

(議長) 私の方に提言という形で子文連の方がまとめたもの、訪問された内容を書いてある。それもある部分、参考にもなるかもしれない。こういうものを協議会として、参考資料として受け取るかどうか、みなさんのご意見も伺いたいと思っている。

というのは、みなさんの賛同がないのに資料にしてしまうと公平性に欠けると思います。という意味で、作成において図書館側に参考にしてくださいという協議会からの意見であればいいと思う。みなさん、この資料の取り扱いについて、みなさんはどういうふうに考えるか。これを私たち協議会の参考資料として受け取り、そしてこれも答申を作成するときに、資料として用いてもらうということによろしいか。この資料の6ページで、図書館訪問、意見交換というところでは、どの程度の人たちが、どういう状況で意見交換をしたのか、あまり良くわからない。このへんについてどうか。この①から⑥まで、予定はまだあるが行ってくださって、時間とお金を使って行ってくださったことは非常に感謝ですし、色々参考資料としてありますが、どういう状況なのか、もし良ければ教えて頂きたい。

(委員) 状況と申しますのは、それぞれどんな感じだったのかということか。

(議長) どういう方が行かれて、どういう方に会われて、このようなまとめをなさったのかというその辺の状況を教えていただきたい。

(委員) 私たち印西子ども文化連絡会のメンバー、平均して10名前後ぐらいで、それぞれの図書館に事前にアポイントメントを取って了承を得て訪問している。①の守谷の図書館は、私たちと同じ団体の守谷の図書館を支えてきた団体の方と面談して、図書館も実際に見学させていただいた。

(議長) 図書館の館長とかには会ったのか。

- (委 員) 守谷の時は会っていない。
- (議 長) 船橋はどうだったか。
- (委 員) 船橋市は、図書館の館長と司書の方にお話を伺った。
- (議 長) 我孫子市のほうは。
- (委 員) 我孫子も館長さんにお話しを伺った。取手も伺った。館長さんはいらっしやらなかったが、責任者の司書の方が対応してくれた。取手市も行政の方と図書館職員と司書にお話を伺った。館長さんはいらっしやなかったが、責任者の司書の方が何人か対応してくださいました。成田の図書館は、館長さんと司書の主任さんと行政のサービス課長と児童書担当の司書さんが対応してくださいました。多摩市は昨日行ってきましたが、館長さんと市民団体の方にお話しを伺った。
- (議 長) 館長さんは、申し出をすると快く会ってくれるということか。
- (委 員) それをやらしてもらえたら、事務局も去年から行きたいと言っていたが、それも実現できていない。私たちが行ってきたことをせめて共有してもらえたらと思っただけの資料です。
- (議 長) ありがとうございます。他にみなさんどうでしょうか。この資料の取り扱いについて、ご意見とかご質問ありますか。
- (委 員) 子文連は、この地域に根付いて38年活動している団体なので、図書館と人と本を結ぶっていう活動をしている団体なので、そんなにこの資料をどうのこうのと言われるとどきとしたのですが、やっぱり地域に根付いてやっている図書館のことを第一に考えていることなので、ここまでやっていると思っていますので、参考になると私は考えています。あと、先ほどの伊藤副館長の説明の中で、以上のことから指定管理を図書館はしないとおっしゃっていましたよね。たぶん指定管理者制度は、いま直営でという方向に流れているので、他の館を見に行かなくても良いのではと。印西市の図書館をしっかりと考えるということで、たぶん図書館訪問は、今回を含めてあと3回の協議会で、この資料を作らなくちゃ

いけないということになっているので、そう言うふうな考えだと思うんですけども、それもすごく理解はできるが、ただ一番考えなくちゃいけないのは、印西市がどういった図書館をするのかというところを考えなくてはいけないので、時間がないというのが一番の問題ではないかと思っている。たった5回でやっつけ仕事のように市議会で決まってしまったのでこれは覆られないのか。5回、そんな回数でいいのですか。他の図書館は3年もかけて、他の図書館も見て作り上げていったというのを聞いたので、せっかく図書館協議会という場があるのにも関わらず、図書館を訪問する時間すらないのはどうなのでしょう。そもそも論になりますが、覆すことは無理ではないか。決まってしまったものだから。

(事務局) あと3回ですが、ほんとうに苦しいというのが正直なところ。今年度中に図書館サービス計画も作らなければならない。答申もつくらなければならない。そこですり合わせをするというところで、ぎりぎりのところである。

(議長) だから時間的な制約は非常に残念である。という私たち協議会の一つの意見として挙げることはできる。私たちは、ある程度の位置づけの中でしか意見を出すことはできないので、ある部分で私たちができる最大のことは何なのかということを考えていかなければならないと思います。ではこの資料を図書館協議会の資料として共有して、図書館側にも参考にしていただきたいという事によろしいか。

(委員) 賛成全員

(委員) 20ページの「書庫スペースの確保」についてなんですが、図書館というのは、そもそも書庫があってそこから本が出てくという考えで、このままこれでやるということになると書庫の公共施設を利用するというとか。これについての説明をお願いしたい。

(事務局) 書庫スペースについては、非常に不足しております。図書館という建物のキャパは決まっていて、どうしても保存しておかなければならないものは必ずある。また、新しい本も入ってくる、現状、満杯状態である。そこで他の廃校になった施設とか借りられれば良いが、使用用途が決まっていてできないのが現状である。民間の倉庫などを借りるのも一つの案である。また、別の廃校になったところとか、廃園になったとこ

ろとタイミングが合えばそこを確保するいくつか案はあります。あと現状で印旛図書館が改修に入ります。そこで書庫スペースの確保という事で、建物に増築をして書庫スペースを確保する方向でいる。そこもいつかは一杯になってしまいますが、何もしていない訳ではない。

(議長) この年報の後ろの方に資料収集の方針と除籍の要綱というところで、限りなく本は出てくるわけで、昔はマイクロフィルムと電子化してとかありましたが、この除籍の要綱についてもある部分再検討とか見直しをある程度していく必要があるのではないかと。ほんとうに今、大学の図書館も消耗品ですよね。残すべきものは何なのか、廃棄すべきものは何なのか、というところで非常に苦闘します。除籍要綱がこれだけ規定されている。ある部分でこれからの保管資料はどういった形であったらいいのかを含めて、これから検討していかなければならないというふうに思われています。意見です。
他に資料について意見あるか。

(委員) 先ほど委員長がおっしゃったあり方についての意見には賛成である。それを踏まえて細かいところの指摘になる。あり方の答申の構成が言わんとしていることはわかるが、文章的にわかりづらいところがあり、もう少しすっきり、まとめていただきたいと思言わせていただく。まず9ページの指定管理者制度のメリットのところですが、文章をもう少しわかりやすく構成できないか。意見差し上げる。メリットのところ締めめにデメリットが入っているのでわかりづらいと思う。メリットだったらメリットでいかしていただいた方がよい。「仕事への士気が高まることはありません」とか「利用者の知る権利に反していると考えられます」とか最後にデメリットみたいなことを言っているの、メリットはメリットのところスムーズに言っただけでいいと思う。
次に今日は14ページからという事ですよ。では14ページの決算額の比較表がありますけれども、一番下に一人当たりの図書資料購入費について、ここに千葉県公共図書館の県別平均値を入れていただきたいと思う。一番下に欄を増やしていただいて、千葉県公共図書館協会の平均値を年々入れていただきたいと要望する。印西市は11万人も人口がいるのに県平均まで予算がいかないのは、非常に問題であると私はずっと思っていたので、ぜひ県平均以上の資料費を確保していただきたいので、あり方について私たちの意見としては、ぜひ入れていただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

それからもう一点、15ページ以降の文章の構成について、繰り返しや重複がすこし多いと思っている。一生懸命読んでいるけど、いろんなところに職員のこととか資料のこととか出てくるので、自分としては考えてみたところは、大きい括りで資料の充実を一項目と図書館サービスの向上を一括りと、それから職員体制のところそれぞれ項目を入れ込んでいただければすっきりするので、いかがかなと思う。図書館にいた人間としてみれば、資料と人とサービスが一つずつの区切りになる。まず資料の充実というのはそこに入れ込んでいただき、書庫の充実とか、保管は資料の充実のところに入れ込んでいただければと思う。それから図書館サービスは、子どもサービス、レファレンス、障害者、高齢者サービスがたくさん入ってくる。そういうことを入れ込んでいただいて、それから職員の中に職員数の増加、有資格者の増加、資格を持った館長の配置、職員研修等そういうのを入れ込んでいただければもう少しすっきりわかりやすくなるのではないかなと考えている。

(委員)

22ページの上から2行目で「できるそうです」が伝文形式になっている。妙に気になってしまい、あと、少し戻りますが、図書館訪問ですが、個々でということですが、研修に関しても職員の研修、それから図書館訪問で個々という言葉は何度か聞いた。市がやっている市が経営している図書館なので、市がやるべきだと思う。研修に関しても市がやるべきだと思っている。市がやるからこそそれを図書館の司書さんたちと一緒にやっている方たちが、共有することがある。個々だったら個々じゃない。結局それをしゃべればいいかもしれないが、市がやっているって事は、研修もしっかりやってもらって、内容もしっかり書いてもらいたいと思う。先ほど子文連からの資料もありましたが、参考文献やどこに行ったということも書いてある。何の講演会に出たか共有して書いてある。それを見たらこれだけの実績があるからこれだけの事が出来るということがわかる。引っかかるのは図書館協議会で、たとえ指定管理者制度にならない方向に今あるが、指定管理者制度を使っている図書館を見る、じゃない方を見るまた直営に戻ったところを見るってことは、市としてやることだと思っています。私たち図書館協議会も協議会委員として、ここにいるということで、そういう心づもりでいるので、時間がたぶん足りないとおっしゃると思いますが、図書館の方々が行くのだったら全員でなくてもいい、見るというのは「百聞は一見に如かず」ですので、前向きに検討していただきたいと考えている。いかがか。

(事務局) 検討させていただく。

(議長) 23ページの直営方式についてというところですけども、現在、直営方式で運営されているが、司書資格を有する正規職員の不足が指摘されていると、直営でやっていきたいという運営のあり方、今まで直営でやってきて、いろんな不足があるわけではないか。直営でというあり方そのものでだが、これまで直営でやってきた。だけど不足が多い、今度また直営でやりますといった時にその不足をどう乗り越えていくのかというのは、図書館サービス計画とか本来の目指すべき図書館のあり方に反映されていくわけなので、その辺もある程度連携してくるわけですよ。ですので「有資格のある職員を採用し図書館の体制強化を図りながら直営で運営していくべきと考えます。」という時に予算の問題もあるでしょうし、市の予算全体の中でのパーセンテージ、どういうふうな仕方でそれを増やしていったらいいのかとか、私たちの範囲を超えているが、教育委員会として真摯に受け止めていかないとなかなか改善はされないのではないか。その辺も図書館としては覚えておいていただければと思う。

(委員) 我孫子図書館に行かれたらわかると思うが、バックヤードが非常に広く、バックヤードが小倉台図書館ぐらい広くて、びっくりしました。やはり見ると今度はこういう図書館を作りたいという一つの視野が広がると思う。そういった意味でも行ったほうが良いと思っています。以上です。

(委員) 23ページに「図書館は直営で運営していくべきと考えます」とあります。これは協議会全員の意見で、直営でいきますということですか？協議会の委員の中で、直営にしますか？指定管理にしますか？どちらにしますか？という方向ってというのは、まだ決めてない？

(議長) 未だ決まっていない。これをたたき台にして考えている。今までの意見を図書館側がまとめていくと、どうも直営でやった方が良いいのではないかという方向にきている。最終的には11月に本当にこれでいいのか、直営よりも指定管理制度の方が良い、あるいは船橋市のように本館は直営にして他のどこかを指定管理者制度にした方が、もっとサービスが向上するし、図書館が活発になっていくことだってありうる訳ですよ。ですから印西は6館あります。今まで全部直営で行っているが、それが本当にサービスの向上と人々の利便性に役立つのか、あるいはどこかを統合するなり、指定管理者制度にした方がよりサービスが向上していくの

か、その辺の見極めが必要である。船橋の例は、船橋特有の背景や事情もあり、それがそのまま印西市に適用できないかもしれないが、そこから何かの知見が得られてくるような状況があるのかどうかということを知りたいわけです。これからの人口のばらつきやいろいろな人達がアクセスできる図書館施設がどうあったらいいのか、そういう意味で統廃合とかあたらしい施設を考えているわけで、はなから指定管理者はだめだとかではなくて、せっかく検討しているわけですから、メリットの中でそういうことも触れたいでわけですよ。

(委員) そうするとまだきちんとしたものが、まだ決まっていなくても、6館をどういうふうにするかということも考えて答申を出す。

(議長) 私としては、もちろんそうだったら一番いいのかなと思っている。

(委員) あと2回で、5回目にはちゃんとしたものを出さなければいけないことになるのですかね。完成させて残り一回でたたき台から見本みたいなものを作り上げていくという事になるのでしょうか。

(議長) これはもう答申案ですから。

(委員) これはもうこのままの形で直すところはあるがこのままの形で出る。直すところはもちろんあるでしょうけど、これを基に正式なものを出す。

(議長) だからこの目次でいいのかとみなさんにお尋ねしているし、最終的には、諮問の審議事項をうまくまとめるような形にしたい。この1から18の項目でいいのかどうか。それから運営主体として6館直営でいいのか、あるいは指定管理者制度を部分的にした方がいいのか。それも考えて議論したい。

(委員) 議論というのは、ここでやるのか。

(議長) ここでやる。ここに付け加えるか、あるいはどこかを削除するか、そのための判断基準になるようなものがあまりでていない。なぜ、船橋が一つを直営にして、他の3館を指定管理者制度にして、成果を上げているのか。その場合の成果というのは、何をもって成果にしているのか。

- (委員) それはやっぱり船橋の図書館に実際に行ってもらって、話を聞いたりしないと議論はできない。私たちの感覚でいきますと実際に船橋の図書館はすごいなと思いました。西図書館が直営で指定管理に出している館もある。直営で担っている仕事の重責があり、直営よりも大変だと思います。それは直営よりもハードルが高いと実感してきたので、それを含めて印西にそれができるのか。印西には何がふさわしいのか。
- (議長) 素人の私たちが聞きに行き、質問が的確ではない。全体の予算の中でどの程度取っているのかとか、図書館職員の司書さんとか知見のある人が見て分析しないと、私たちが行っても説得力がない。そういう面では指定管理者制度導入という答申の中で、うまくいっているところの分析はとても大事です。それを受けて、学校さん、学術経験者、図書館でボランティアをされている方の意見を聞いて、最終的に答申をまとめるのが理想である。限られた範囲の中で、せめて船橋の成功例についての分析はほしいなというのが私の願いである。
- (委員) 昨日、子文連で多摩市立中央図書館を見学しに行ったのですが、そこで図書館を作り上げる会の方達と話し合いをして、市民運動の中で図書館を作り上げていくという話を伺って、今、中央館が7月にオープンしましたが、新しいのができる前の本館をどうするかということで、20年前に作る会が立ち上がって、20年、紆余曲折いろいろあってきれいな中央館というのが最近できました。20年前というのが、私たちが子文連で活動している20年前が今、私たちの足元にあると実感してきました。図書館というのは、市民が使える市民が集う場所であってほしいと思っている。いま印西の図書館を考えると1年で答申を出さなくてはいけない。何をしたらいいのかと切実に感じてきて、もう少し答申を先に延ばせるのなら延ばして、もっといろいろ話し合いができると思いますが、期限は今年度で変わらないか。
- (議長) ですから答申の中で要望を書けば良い。限られたところで私たちは最善を尽くせばいい。板挟みになるのは図書館さんなので、私たちは、図書館長から諮問を受けただけの話ですので、答申は答申で出すけれども要望として一年足らずで何が答申をだすみたいだね。それはそれとして要望を出せばいいので、今、私たちができる最善のことをしていきたいと思っています。そしてある部分でこのように事務局でまとめていただいているので、18項目ありますが、次回、18項目よりはこっちの方が

良いのではないかと、黒澤委員から出たようにもうちょっと簡潔に何が言いたいのかをわかるような文言を精査していただくことも必要である。

(委員) 資料を読ませていただいて、内容については特にということはない。資料を必死に読まなければ頭に入らないので必死に読ませていただきました。別の資料を見たときにグラフ、色、示し方が違うと実感しました。結論を導くためにもう少し表し方を工夫していただく結論に近づけるかと思った。またそこに説得力が出てくるのではないかと実感した。簡単に言いますと14ページの表の中にプラスマイナスとか比較の部分が出てくれば、上でそれを強調しなくても実感としてわかる。また、グラフが入っていれば一目瞭然で説得力が出てくる。ご検討いただきたい。

(議長) 今回、いろいろご意見がありましたが、それを踏まえていただいて、次回に総まとめ的な議論をしたいと思います。
次に議題(2)印西市立図書館年報 ―令和4年度統計― (案)について、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局) 議題(2)印西市立図書館年報 ―令和4年度統計― (案)について説明。

(議長) ただいま事務局より説明がありましたが、ご質問ご意見あるか。

(委員) 一つ目、年報は毎年どこの図書館でも発行していますが、何のために作成して、どのように公表しているのか。また、どのように活用しているのか。

(事務局) 一年間の利用状況を知るために作成している。活用については、市民に活動状況を知っていただくために発行している。

(委員) 5ページの業務概要、年報というのは一年の業務内容、次の年へのステップだと思う。2ページの運営方針を基に一年間活動してきて、業務概要の中にどういう活動をしてきたかを入れてもらいたい。数字で示すのも大事だが、どういう様子だったのか、どういう状況だったのか、利用者の方はどうなのか、それぞれの館ごとに司書の方がいて、図書館サービスを提供したときに、どういう状況だったのか私たちは教えてもらい

たい。大森や小倉台図書館は見ることができるが、6館あるのに私たちは行けていないので、業務概要の中の活動報告をそれぞれの館ごとにさせていただきたいと思う。(3)の事業実績の3行目の資料収集ところは資料整備に入ると思うので、ここの文章をもう少し工夫していただけないでしょうか。要望です。それから11ページ資料増減表のところで、令和4年度の購入は8,730冊、寄贈が1,756冊となっているが、35ページの(2)令和4年度資料購入費の内訳で10,486冊となっている。これは、寄贈も含まれているのではないか。もう一つ同じ35ページの決算額の一番下ところが22,220,555円になっているが、36ページの決算額の資料購入費24,816,467円と差がある、ここも数字を合わせていただきたい。つぎに11ページ資料増減表の減少分13,202冊とあるが、14ページの除籍資料統計の合計が13,211冊となっている。次に16ページ蔵書点検集計表で、小倉台図書館の不明資料数が増えているが、どのような対策をたてているか伺いたい。次に30ページ電子図書館統計ですが、これは一般的な統計の出し方でしょうか。コンテンツ数がわからない。35ページの令和4年度資料購入費の内訳で電子書籍システム及び電子書籍使用料の172タイトルと電子書籍123点の数字の差がわからない。ホームページでこの資料を公表するし、他の図書館にも配布し、国会図書館や県立図書館にも年報がいくと思うし、ここで私たちが承認することになっているので、表現や数字の齟齬とか非常にはずかしいことなのできちんと説明できるようにしたほうが良い。

(事務局) 5ページの書き方については、今後、調整していきたい。数字については、確認する。最後の電子書籍の統計の出し方については、一般的かどうかはわからないので、検討させていただきたい。35ページの資料購入費の内訳の中で電子書籍システム及び電子書籍使用料の172タイトルについては、2年間52回の期限付きレンタルになっており、備品の電子書籍については、図書館での買い取りになっている。蔵書点検の小倉台の不明本が増えた理由ですが、防犯カメラ4台設置しているが、実際は入り口付近に設置されていて、書架のところまで防犯カメラが行き届いてないこともあり、今後検討が必要であると考えている。

(委員) 防犯カメラを図書館の中に設置しなくてもいいが、盗難されているものの傾向と対策をおねがいしたい。35ページと36ページの資料購入費の決算額が違うがこれは为什么呢。整合性を合わせていただきたい

い。年報は国会図書館、県立図書館や他市の図書館にも配っていると思うし、印西市立図書館の一年間の歴史でもあるので、もう一度じっくり見直しをしていただきたい。

(委員) 市民に知っていただくための資料だったら研修の内容を市民に報告すべきではないか。図書館がどれだけ頑張っているという報告書だったら抜けているように思うが、こういうものは入れないものなのではないでしょうか。質問である。

(委員) 現役の時、県内の図書館や県外の図書館をいろいろ見てきました。それぞれ独自の年報のあり方があっても良いと思うが、年報に研修はまず見たことがない。だが何らかの形で、職員を育成していただきたいと思っている。図書館職員は、世の中の状況に応じたサービスの変化に対応して、技術を提供することが図書館サービスの向上につながるのだから、様々な研修が用意されている。段階に応じて、たとえば初級研修、中級研修、上級研修、レファレンス研修などそれを一人の人が計画的に研修に出してほしいとずっと要望していますが、たぶん一館に一人しか職員がいないとそういう研修の出し方をしているのか懸念している。白井市では議会に報告している。議会の決算委員会の時にどういう研修に職員を出したか報告を上げている。委員さんの要望ならば年度初めか年度最後にどういう研修に何名行ったのか報告なさったほうが良いと思う。船橋の指定管理者は、いつ、何人、何の研修に出たか報告している。

(委員) 21ページのレファレンスですが、窓口と電話で受け付けている数字が出ているが、私としては多いと感じているが、この本はどこにあるのですかという問い合わせに答えた件数もレファレンスに入っているのか、それともこういう研究をしたい、こういう本を見たいが本を紹介してくださいという問い合わせだけがレファレンスなのか、そのところをお聞かせいただきたい。

(事務局) レファレンスには、本の所在、在るか無いかとか、こんな本を探してほしいとか、簡単なレファレンスも全部入っている。

(議長) いろいろなところに出すので、整合性を図って、特に数字のこととかもう一度確認していただければと思います。

それでは他にご意見がないようですので、年報については協議会として了承したということによろしいでしょうか。

(委員) 賛成全員

(議長) ありがとうございます。それでは、引き続き報告に入りたいと思います。報告(1) 印西市立図書館サービス計画(案)及び印西市立図書館サービスに関する市民意識調査(速報版) アンケートについて、コンサル(都市環境計画研究所)より説明をお願いしたい。

(コンサル) 報告(1) 印西市立図書館サービス計画(案)及び印西市立図書館サービスに関する市民意識調査(速報版) アンケートについて説明。

(議長) 只今、コンサルさんから説明がありましたが、この内容に関しまして、質疑等がございましたら、挙手をお願いしたい。

(委員) 21ページの先進事例・参考事例調査が唐突に出てきているように感じる。
このような事例が載っているのは、どういう意図があるのか。教えて欲しい。

(コンサル) 今回のご報告としましては、ここの部分に一旦入れさせていただいておりますが、いろいろな事例についてはそもそも調べるということになっていまして、そちらのほうをお示しするのにここのページがいいのか、最終的な計画書についてはここではなく例えば後ろに参考資料としてつけるなど、構成を変えていこうかと思っている。

(委員) 目指すべき図書館があつて、こういった事例が出てくると思う。なぜここに出てきたのかと疑問があつた。もう一点、29ページの図書館のミッションというところですが、ミッション・使命と聞くと、箇条書きでわかりやすいようなイメージがあるのですが、文章で書かれていて若干違和感があると思いました。例えば成田なら、

1. 生涯にわたる学習の場として、市民の自立を支えます。
2. 市民が自分の居場所として集い、憩い、学べる場となります。
3. 成田の文化・歴史をまとめ、次の世代につないでいきます。

のように、抽象的ではありますが、そういう書き方で、ここに書かれて

いるのは、ミッションというよりは、図書館の役割機能を羅列されていて、最終的に人と人をつなげるコミュニティがひろがるつながる図書館をミッションとしているのが、なにか違うような気がした。

(コンサル) こちらはたたき台案ということで、本日色々なご意見をいただいて、少しずつ直していきたいと思う。ありがとうございました。

(委員) 21ページなのですけれども、先進事例・参考事例調査ということなので、この中に入っていないのは、複合とかあるのですが、単独で1階から4階まで図書館とか、そういう単独の例も入ったらいいのではないかなということと、それから25ページの、「DX」ですけれども多分、これ見た時どなたも意味がわからないと思うのですね。30ページのところにも「デジタルディバイド」って出ているのですが、この理由をちゃんと入れておかないと、読んでも「なんか未来型だなあ」というだけでちゃんと伝わらないと思うので、その説明を入れたほうが良いと思う。以上です。

(コンサル) ありがとうございます。「DX」等わかりにくい言葉、そのあたりについては注釈等の中に入れていきたい。

(委員) 26ページの「ナッジ理論」は書いてありますので、このぐらいの分量でお願いしたい、以上です。

(委員) 27ページ課題の整理というところで、印西市の一番問題となっているのは、私の認識では職員数の不足と資料費の少なさ、令和4年度8,000冊しか購入していない。極めて少ない。もう一つはサービス向上ですが、本当に少ない人数で、幼児から小学生まで事業しか行えていない、基本的スタイルの事業しかできないと思う。課題があるから問題視して次に進むと思うので、行政側がどうとらえているのか、それをコンサルがどう受け止めて反映していくのか、よく図書館とコンサルで協議していただきたいと思う。先程の船橋の成功事例ですが、サービスの向上のために指定管理を入れているので、経費の削減のためではない。それが、成功の要因になっている。だからこそ職員を増やしたし、資料費も変わらず維持していて、西図書館がきちんと持っている。図書館サービスの向上では、図書館の利用者を増やすために、あらゆる事業をあらゆる年代層に事業を行っている。先ほども言ったがサービスの向上を盛り込んで

ほしい。入れ込むのは司書じゃないとできないので入れてもらいたい。ボランティアの育成もサービスの向上なので、今の課題とと思っていることをぜひ入れ込んでいただきたい。あと図書館は専門用語が多いので、必ず説明書きを入れていただきたい。以上です。

(コンサル) 今いただいた課題については、事務局さんの方と話し合いながら決めていきたいと思います。この後、サービス計画部分につきましては図書館の方に調査票を出しまして、どんなことをやっているのかということ調査してから固めていきますので、そちらのほうはコンサルで勝手に書くということではなく、調査をしてから入れ込んでいきたい。

(委員) 29ページと30ページのことで伺いたいことがあるのですが、拝見したときにつながる図書館ってすごく素敵な言葉だなと思って、本当にこういう図書館になったらいいなと思ったのです。そのうえで、2つ質問したい事があるのですが、1つはそもそもこの「つながる図書館」というこの図書館のミッションはどなたが話し合って決めたのかを単純に知りたいということがひとつと、それとこれを見たときに学校って言葉が全然出てこないと思ひまして、学校図書館も公立図書館との連携をやりたいなというのを私も4月の研修でそういったことを受けたこともあったので、どこかにも含まれているのであれば教えていただきたいですし、入っていないのであればどこかに入れていただけたらありがたいと思う。

(コンサル) ミッションの部分については立ち上がった話になりますが、私たちがこの計画の策定を契約するにあたりまして、プロポーザルという形で、このようなご提案をしますというのを一旦お示しして、合意を得てこの仕事をさせていただいているのですが、もともとこちらで考えた言葉、今はまだたたき台の範疇ですので、これから事務局さんからご意見いただければそれを入れることを検討し、後半のサービス計画の所に絡めていければと思っています。

(議長) ミッションの書き方云々ですが、結構キーワードでつないでいくのは若い人たちには、ぱっと入ってくる。箇条書きするというのは私たちの年代である部分で、だから表現の仕方とか、要するに、要はクリアになれ

ばいいのですが、まあたくさんの使命を担っているのです、ある程度かいつまんで書いてあるが、非常に図書館の使命も複雑化している、多様化しているのだと改めて思います。それと基本方針4の子どもの読書活動の推進と学校図書館のつながりみたいなところを少し射程に入れておいたら良いのかなと思った。他に何かあるか。

(委員) 内容というより、図書館サービス計画の決め方ですが、今回今年度中に決めるということに若干感じることもある。ですが、10年計画の大事な計画だと思うのですが、これを今年度中に決めていいものなのかと疑問に思う。これは行政の方にお伺いしたいのですが、先ほど飯島課長も今年度中にそれは進めていきますとおっしゃっていたのですが、他を調べてみると、図書館サービス計画、10年単位のものは策定する前に策定委員会というのをまず数年前に作って、市民からもワークショップなどをやり、市民の意見も掬い上げ、いわゆる助走みたいな段階があって作成に至るのですが、印西の場合そういう助走期間が全くなく、いきなりコンサルの資料で検討し決めていくのは、どこか違う気がする。そういう期間を持たずに進めてしまわなければいけないような事情が印西市にあるのかなと思った。令和6年度から始まるということになっているが、来年度から始めるために今年度中に決めましょうということなので、その助走期間の数年を経てのサービス計画という風に時期を遅らせることはできないのかそのあたりどうなのか。

(事務局) 完成時期については、遅らせることはできません。正直申し上げて、今までなぜサービス計画がなかったのか。もっと事前にあるべきだったものがないまま引き継ぎ作成することになった。令和3年度に利用者アンケートを行い、サービス計画を策定することになった。それをみなさんにお示ししたところ利用者だけではなく市民からもアンケート取りなさいというご使命を受けたところです。もともと、もっと早くやっていたはずだったので、まあ早急に作る必要があるということです。

(議長) 計画は10か年の中で順次やっていくところで微調整というところが当然でてくるということは前にお伺いしました。もちろんミッションとか方針とかはそんなにすぐは変えられない、いったん決めたらそれで行くという事でしょうから。

(委員) 10年単位の大事な計画で、図書館だけで決めることではなく、それこ

そ上位計画を作っている部署とか、市役所内の調整も必要だと思う。それとやはり市民の図書館ですので市民の意向や、こういう図書館がいいという意見を掬い上げる形で進めていってほしいと思う。サービス計画を作ったのでこうします、ではなく市民とともに見直しながら10年間継続していくというようなものをサービス計画の文面の中に今から入れてもらいたい。

(事務局) ある程度の素案ができましたらパブリックコメントを行います。これをみなさんにお示しして、意見を吸い上げてその意見を計画に盛り込んで進めることになっている。全く一方的にこちらで「できました」とお出しするものではありませんのでご安心頂きたい。

(委員) 今日の協議のこの章までは総論みたいなところなので承って、でも課題は追加していただきたい。次回の章からが勝負で、計画はとても大事だと思いますが、絵に描いた餅にならないように、とにかく資料費と職員が足りないから、こうして計画自体を作ったところで推進力が果たしてあるのかということが、私たちが心配するところです。今9月で、来年度予算がもうすぐスタートするし人事セッションや人事募集なども始まると思いますので、今の司書の人たち7人ですか。それに加えて任期付職員さんに手伝ってもらいながら、その人数で果たしてこの後の具体的な施策が出てきたとしても推進力があるのか。現場の職員が苦しむだけではないのかということが非常に懸念されるので、人の獲得と予算の獲得は並行してぜひ館長さんに進めていただきたいと思います。このままの予算と人で行ったらなにも計画が遂行できませんので、何卒お願いしたいと思う。以上です。

(委員) サービス計画ということなのですが、8ページ以降が図書館のカルテになっていますが、どこにある文化ホールと同じ建物とか、それだと計画なのか疑問があるのでせめて図書館で何をやっているのかくらい書いて頂きたいです。各館でお話会はやっていますから、お話会くらいは書いてほしいし、何曜日にやっているかとか年度で違うのかもかもしれないので、それはどういう風に表記するかわからないのですが、何をやっている図書館なのか、入れられるなら入れてほしい。以上です。

(事務局) 図書館のカルテのところなのですが、こちらの方に各図書館からPRポイントであるとか、そういうことを募集して書くという計画にはなって

いる。

(議 長) この長期計画、10年計画ということだと、やはり10年後の市立図書館はどうなっていってほしいというビジョンというのがあると思うのです。10年後を想定しながら、来年度は何をすることでそこに近づけるのかという、そういうある程度のことだと思いのです。ですから現在の課題をどう克服して、図書館がどうありたいかをクリエイティブ的にぜひ取り組んでいただければと思う。色々私たちも意見を出して要望もあってぜひ受け止めていただきたいと思います。そういう意味でこれから都市環境計画研究所さんとか、あるいは図書館との協力の中でお願いしたいと思ひます。それでは次に、民話絵本作成活用方針ということで事務局の方から説明お願いしたい。

(事務局) 報告(2)「印西市民話絵本作成活用方針」について説明。

(議 長) 只今、事務局から説明がありましたが、この内容に関しまして、質疑等がございましたら、挙手をお願いします。この民話絵本は、印西市が作成するという事か。

(事務局) はい、その通りです。

(議 長) それでは、他に意見がないようですので、その他ですけれども事務局から何かご希望ございますか。よろしいでしょうか。皆さんの方からは何かあるか。

(委 員) 議事録についてですが、たまたま前回の議事録を読んだ方から図書館協議会は何をやっているのですか、内容が分からない。と言われました。私も最初に来た時にかなり割愛されていたので、書き足してもらったのですが、もう少しこの会の流れが分かるような議事録を作って頂きたい。

(委 員) 武井委員がおっしゃっている事、とてもよくわかる。今回、会議録が来ましたが、最短の6ページになっていて、読んでもわからない。何が話し合われたのか、かなりはしょられていて、自分が何を喋ったのかも思ひ出せない。これは何だというのが率直な感想です。けれど、そう思っても、もうこれでホームページに載るといふことですよ。我々2時間

喋っているのに、こんな僅かな仕事量しかないのかと。これでは私はダメだと思う。皆さんいかが思われたか。

(委員) 公表する前に必ず全委員にお見せして校正し、これでいいですかと。それに倣って、1回全員の委員さんに戻して、これで良いか確かめたいかがでしょうか。もしくは、すべて録音しているのですから、言ったままを全てテープ起こしするか1度フィードバックしてもらいたいと思います。確かに、はしょられすぎていると感じた。

(議長) 議事録はある程度作ったら、大体それぞれの協議会の委員に回してそれでいいでしょうかということも議事録を確認する。今まで私たちはそれを指名委員に委ねてしまっていた部分もあったのではないかと思います。指名委員も大変だと思います。ですからある程度事務局さんの方でまた指名委員の方々と調整しながら作って、指名委員の負担を軽減するためにも、議事の前に議事録の承認というのをこの協議会で最終的には図った方がいいかもしれません。いままでは議事録が来てもうそれで終わりというものだった。議事録が次の議論にどういう風に反映されていくのか、そういうことも毎回見てやっていかなければ積み重ねができないので、協議会の前に前回議事録はこれでよろしいでしょうかと、承認を取ってそれをホームページ等に公表していくというような形を取った方が指名委員の方々の負担、重責というのが少し軽減されるかなと思います。ただ議事録の正確性。この協議会の議事録というのが、どういう性質のものなのかというところが、もうひとつ分からない。一応ある面で図書館の活動の諮問機関というところなので、図書館活動にいろんな意見を取り入れる、そういうところですので最終的には然るべきところでの決断でいくわけで、生涯学習課の元で私たちはその諮問というような形で位置付けられているというふうに理解するとすれば、議事録についてどの程度それが効力を持っているのか、こういう諮問をしているのだなというのがわかる程度でいいのかなと思う。ここで決めたことが全て実施されていくわけではないので、そのあたりの性格の問題もあると思う。性格というのは、キャラクターというか性質の問題でもある。ある面で私たち協議会の意見の総意が反映されるような議事録であったらいいのではないかなというところである。そのように1回やってみましょうか。今度の議事録が出たら私たちに渡してもらって、意見を聞いて最終的にこの協議会で「じゃあこれでいいですね」と判断するという方向でやったらいいか。ありがとうございます。

(事務局) わかりました。

(議長) ありがとうございます。

(委員) 先日、小学校の図書館司書の先生と話したのですが、図書館費について若干考えさせられるところがあったので、質問したいのですが、令和2年、3年、4年で宮下文庫の寄付があった。90万円ずつ毎年くれて、それに対してこの期間図書館費は999円しか出てなかったらしい。本来のお金が出ていない。それで、寄付だけで成り立つ。これって文科省の方では学級×何円となっていて、例えば小倉台小学校のがとても生徒数が多いので、4万700円×30クラスというのだったら、122万1千円なのですね。それはもらえてない。999円になっている。でも宮下文庫の宮下さんからすれば、それプラスアルファで、子どもたちに多くの本を差し上げたい・提供したいって思ったから寄付をしたのだと思う。122万円はどこへ行ってしまったのだろうと私も思った。今回は終わってしまったことなので、過去のことになってしまうが、今後も寄付があったら基本のベースのお金は取り消しになってしまうのでしょうか。私は、寄付というのは「寄付」だと思うのです。ベースがあってからこそその寄付だと思っているのですが、それについて今日は答えられなくても11月に答えてほしいと思って今質問する。もしすぐ答えられるならお願いしたい。

(事務局) うちでそのお金を預かっているわけではありません。担当は学務課である。ですので、どうなっているのか訊ねてみたいと思う。

(委員) はい、是非教えて頂きたい。

(事務局) どういうシステムだというのが、うちでお金持っているなら答えられるのですが、学校図書関係のものはうちで持っていないので聞いてみたいと思う。

(委員) お願いしたい。引き続き、学校図書館について先ほど永田委員もおっしゃっていたが、学校図書館毎回言っていますけれども、1人が3校、小学校・小学校・中学校とか、1週間の間にいろんなところを跨いでいるという状況がずっと続いている。それに関しては本当に専任で、専門で

正規であってほしいと思っている。それと毎回これはその他のところで誰かが発言しないと、学校図書館については誰も発言がないということになる。なぜ毎回議題のこの中に入らないのかなと思っているので、こういうのは他のところでも学校と図書館について話し合うという場がないのですか。

(委員) いつも言っているのですが、多分。今年度から、子どもの読書活動の推進の事務局が図書館になったので出していいと思います。大森図書館が事務局になって、子どもの読書活動の推進を司っているので、学校関係者とも話すことがあると思うので言っていると思います。それをきちんと伝えていってもらいたいと思いますが、子どもの読書活動推進では、向こう5年の間に2校に1人配置するってなっていて、それはとんでもないことだ。すごく遅れているからぜひ1校に1人配置してくれというのは、もうここ私が何年も言っていることで、白井市はもう平成25年くらいに10年以上経っているかもしれませんね。既に配置しているし、我孫子、船橋、八千代等みんな配置されている。成田も絶対配置されているし1校1人で配置されている。膨大な業務量があるのに掛け持ちなんて無理だと思う。ちゃんとそこにいて、学校の子どもたちに顔を見て、安心して本を繋ぐ役割を担わなければダメです。印西市さんはそのあたりのところが非常に遅れていると思うので、是非子どもの読書活動推進を担っている図書館の方から言って頂きたい。

〈事務局〉 基本的に学校図書館は教育委員会。市立図書館の方も教育委員会の生涯学習課の中に入っているが、学校司書は学務課に入っている。

(議長) その連携がどういう風になっているかというところが、体裁的にはいつも問われるところである。

(委員) 図書館について考えるってなった時に学校図書館を外せない部分なので、やはり一緒になって考えたほうが私は良いと思っている。以上です。

(議長) 他に質疑がないようですので、進行を事務局にお返しする。
本日は、みなさまのいろいろなご意見ありがとうございました。
議長の任を解かさせていただきます。

〈事務局〉 本日の予定は、すべて終了いたしました。

これをもちまして、令和5年度第3回印西市立図書館協議会を終了させていただきます。

令和5年度第3回印西市立図書館協議会の会議録は、事実と相違ないので、当協議会は、これを承認する。

令和5年11月16日

印西市立図書館協議会

委員 黒澤 真澄